

鴨川ふるさと会だより

— 第7号 —

鴨川ふるさと会事務局発行：〒296-8601

千葉県鴨川市横渚1450番地(鴨川市役所企画政策課内)

TEL:04-7093-7828

その後、来賓を代表して片桐市長と石田議員からもごあいさつをいただきました。

その後、来賓を代表して片桐市長と石田議員からもごあいさつをいただきました。

清水副会長による開会の辞に続き、主催者を代表して石川会長にごあいさつをいただきました。



冒頭のあいさつ

去る平成二十三年七月三十一日(日)、ホテル銀座ラフィナート松風の間を会場に、五十名を越える参加者を得て本年度の定期総会を開催しました。

当日は、衆議院議員石田三示氏、鴨川市長片桐有而氏、鴨川市教育次長福田典白氏の三名のご来賓のほか、石田議員の政策秘書を務められている古市一雄氏、郷土史に関する学習会の講師として日本大学の千葉いすみ氏にもご臨席いただきました。

開催結果については既に皆さんにお知らせしたところですが、ここに当日の様子を紹介し

平成
23年度

定期総会を開催しました!

議 事

平成二十三年度の事業報告・収支決算、会費制の導入に伴う会則の改正案、平成二十三年度の事業計画(案)・収支予算(案)が議案として提出されました。特に、会費制の導入に関わる議案の説明にあたっては、石川会長から「市が何をしてくれるのか」ではなく「市のために何ができるのか」を大事にして今後の会の運営にあたりたいという志

大使、ふるさと納税、そして市政に対する意見・提言など、ふるさと会が日頃から行っている市政に対する協力への感謝とともに、会費制の導入が自主的に検討されたことに対する敬意が述べられました。

また、石田議員からは、開催への祝辞の後、国政の状況とご自身が果たされている役割などについてお話をいただきました。



が語られ、いずれの議案についても満場一致により来場した会員の皆様からのご承認をいただきました。

なお、事業計画(案)の一部として、週刊新潮の表紙絵で知られる谷内六郎氏の作品による企画展を鴨川市が開催するにあたり、ふるさと会でも全面的に協力していくことについてご理解をいただきました。この展示会は、本会の会員と谷内氏の遺族が懇意にしていることをきっかけとして始まった話で、谷内氏ご本人



議事終了後は、故橋本春吉氏以来となる本会の二人目の顧問として、石川会長の介添えにより、石田議員の就任式を執り行いました。

これは、郷土出身の政治家を支援していくとともに、国政での経験を活かして会の運営についてのアドバイスなどをいただくことを目的として、石川会長から石田議員にお願いしたところ快諾いただいたもので、当日は就任承諾書にご署名いただきました。

顧問就任式

谷内氏の展示会について、詳しくは次のページをご覧ください。

も外房地域に縁が深く、鴨川市近隣を題材に多くの作品を残されていることから、鴨川市とふるさと会の連携のもとで開催しようとするものです。

市政懇談会



市執行部に会員の皆様から直接ご意見・ご提言をいただく機会として、昨年度に引き続き市政懇談会を実施しました。

はじめに片桐市長から市政の概要について説明いただいた後、フリートーキング方式で意見交換会を実施。会員からは、市の財政運営、食・観光・文化のPR、教育の充実、旧市街地の活性化などのほか、東日本大震災後における市の対応等について質問があり、片桐市長と福田教育次長からそれぞれ市の考え方について説明が行われました。

また、当日、会員との縁により出席されていた料理評論家の山本益博氏からもお話をいただき、現在、おらが井に関する取り組みに携わってお

られる経験を中心に、鴨川の食のPRについて示唆に富んだご意見をいただきました。

ティークレイク



総会の開催に併せて、例年、会員同士の交流を深めるための懇親会を実施してきましたが、本年度は、総会の中身をより一層充実させるとともに、より多くの人が気軽に出席しやすい参加費を設定するため、飲物と軽食のみの簡素な方式で実施しました。

会場では、ふるさとの話題を中心にいくつもの輪ができる中、石田議員の秘書で本会の設立時の事務局長でもあった古市民から、同氏が執筆された新刊『南房総からの日本再考』の紹介と本会への想いをお話いただくなど、充実した時間となりました。

郷土史の学習会



お茶で一息ついた後は、鴨川市が現在取り組んでいる、市内に存在する牧場跡「嶺岡牧」を活用したまちづくりについて学習会を実施しました。

当初、講師を予定していた東京大学大学院の日暮晃一教授の体調不良に伴い、調査に随行した日本大学の千葉いずみ氏に講演をいただきました。

千葉氏からは、昨年度実施した調査の成果や今後のまちづくりへの活用の際にの考え方などが紹介され、嶺岡山系には、現在でも馬除けのため土手跡が数十kmに亘って遺されていることや、鴨川が大手乳業メーカーの創業に深い関わりを持つことなどが紹介されると、会場からは驚きの声があがりました。

「谷内六郎展～海と山と田んぼとあの頃の私～」(仮称)の開催

週刊新潮の表紙で知られ、日本人の原像を深く鋭く捉えた作品で今も広く愛される故谷内六郎氏ですが、本年度、ふるさと会では鴨川市との連携により同氏の作品展を開催することを次のとおり計画しています。

市民ギャラリーとみなみの里の二箇所の会場を巡回しますが、いずれも観覧は無料となります。ご家族やご友人をお誘い合わせの上、この機会に是非ふるさとを訪れてみてはいかがでしょうか。また、開催期間中にボランティアとして従事いただけただけの会員の方を募集(半日から可)していますので、皆様のお申出をお待ちしております。



©Machiko Tanuchi

開催の概要

- 会場及び会期
鴨川市民ギャラリー 平成24年1月7日(土)～1月15日(日)
みなみの里 平成24年1月17日(火)～2月1日(水)
- 主催等
鴨川市 共催 鴨川市教育委員会
鴨川ふるさと会
主 菅 鴨川市農林業体験交流協会
協 力 谷内達子
■展示内容
谷内六郎氏のジークレー 一面約30点他

会期中のボランティアを募集しています！

事務局では、みなみの里展示期間中のボランティア(お土産あり)を募集しています。従事していただく内容は、入場者数のカウントなど。ご都合のつく方は同封の申出書に必要事項を記入の上、事務局までご連絡をお願いします。

ふるさとた場

「観光地鴨川に 日本一の中学校」

鴨川ふるさと会会員
(元千葉県中学校長会 会長)
池田 一男



本年度の総会で旧鴨川中学校と旧江見中学校を統合して新設された新鴨川中学校が紹介されたことを受け、去る十月四日、石川会長・山田監事と同校を参観してきました。

出山校長先生の案内に長谷川教育長さんと福田教育次長さんが同行されて説明を加えて下さいました。市役所近くの四万八千平方メートルの広大な敷地に四十一億円余の巨費を投じて建設された中学校は文字通り教育の殿堂でした。理科(三)、音楽(二)、家庭(調理・被服)、技術、美術の特別教室とその準備室、図書室、パソコン室、視聴覚室、

武道場(柔道・剣道)の他、屋内運動場(バスケット二面)、陸上競技場、野球場、駐輪場(四百台)、駐車場(百台)等が合理的にしかも工夫を凝らして完備され至れり尽くせりの教育環境でした。特に、駐輪場の屋根には太陽光発電装置が設けられ使用電力の二割を自給し、トイレの照明は感應式で節電の工夫がされており教育にも役立っていると思えました。全生徒五百三十二名・十八学級(普通学級十五・特別支援学級三)、一階一年生、二階二年生、三階三年生で各階には学年職員室があるなど、教師は生徒に密着できるようにになっており、各階には学年集会広場があつて生徒指導の場になっていました。障害児のための特別支援教室も整備され、エレベーターも設置されていてトイレは勿論学校中を車椅子で回れるようバリアフリーへの配慮もされていきました。

廊下ですれ違ふ生徒たちは必ず立ち止まって「おはようございます」と丁寧な挨拶をしており教育の一端がうかがわれました。出山校長は「自学・自律・活力を教育目標に掲げ、生徒の自主性を重視した教育を展開しています」と話されていたが、各教室の入

り口には生徒の字で『挨拶』と書いて貼つてあつたのも印象的でした。

出山校長は、千葉市でも教員をされたことがあり、県総合教育センター研究指導主事、県教育庁企画管理部教育総務課委員会室長、東上総教育事務所長のご経験もあり県下有数の人材で正に鬼に金棒です。片桐市長初め市民の教育にかける期待と情熱、これを具体化している長谷川教育長の手腕に敬意を表します。

現代学校建築の粋を結集し、電子黒板、上下移動黒板、調理教室の演示用鏡その他教育最先端の設備を備えた鴨川中学校の教育環境は日本一とつてよいだろうと思います。ふるさと鴨川にこのような中学校ができたことは大きな誇りであります。

各地の校長会・教頭会をはじめ教育関係団体は研修の一環として教育参観を実施していますが、宿泊施設の完備している鴨川に特色ある学校ができたことは朗報で参観者が増加することは必至です。鴨川観光に一役買うことにもなるのではと期待しています。

中学校参観後、市役所に立ち寄り片桐市長さんを訪問しました。私共のために特に時間を割いて下さつて、教育や

観光に関する抱負を明るく語られ、記念撮影までして下さいました。十分後にはその写真が出来上がり、鴨川行政の真髓に触れたようで感動して帰りました。

かまわどックス

千葉ロッテマリーンズ 秋季鴨川キャンプ 鴨川で一軍選手が躍動!



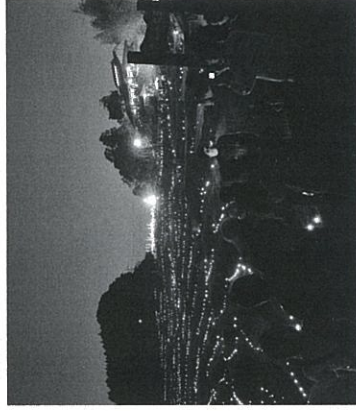
少年野球教室での鴨川投手

平成二十三年十一月二日から二十七日まで、鴨川市総合運動施設を会場に、千葉ロッテマリーンズ秋季鴨川キャンプが行われました。

現役の超一流選手のプレーが間近で見られる機会に、市内外から多くの方が訪れ、地域経済への寄与はもちろんのこと、鴨川に多くの元気を与えてくれました。

棚田の夜祭り 「大山千枚田 幻想の夜」

平成二十三年十月二十八日



から十一月六日にかけて、市内大山千枚田で「棚田の夜祭り」が開催されました。

期間中は棚田が三千本の松明で演出され、ステージイベントや鴨川産の食材を使った「飲食夜市」も開催。

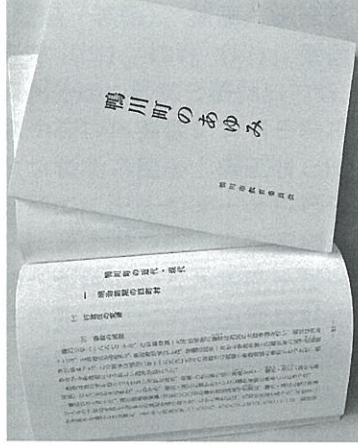
シャトルバス発着場となった「みんなみの里」周辺の駐車場に行列ができるほどの多くの人が、幻想的な夜に酔いしれました。

輪廻のラグランジェ

鴨川を舞台にしたテレビアニメ
「輪廻のラグランジェ」が放送開始!

架空の高校、鴨川女子高に通う主人公が、ひよんなことからロボットに乗り込むこととなり、鴨川の町と人々を守るために戦うというストーリー。放映時間等は現段階で未定ですが、年明け一月から、チバテレビとTOKYO MXテレビで放映予定。

「鴨川町のあゆみ」を刊行



鴨川市教育委員会では、町村誌としては十三冊目となる「鴨川町のあゆみ」を発刊しました。

古代から昭和二十九年の鴨川町誕生までの鴨川地区を題材に、その沿革をはじめ、各寺社の由緒、教育・産業・生活の様子などのほか、江戸時代の横濱・前原の様子、漁業を中心とした水産業、汽船・鉄道などの交通網の発展などについて、同地区の歴史を読み物としても楽しめるよう、わかりやすくまとめた内容となっています。

なお、この「鴨川町のあゆみ」は、鴨川市の歴史をより平易な言葉で地区別に刊行する「地区別読本シリーズ」の最新作に位置づけられるもので、今回発刊したものを含め、

同シリーズとしてはこれまでに、主基（完売）、大山、田原、曾呂、太海、小湊、天津の計八巻が刊行されています。

完売となった地区はもちろんのこと、在庫が残っているものも僅少となっている地区もありますので、是非この機会にお求めください。

一冊七〇〇円。通信販売にも対応。

詳しくは鴨川市郷土資料館（☎〇四七〇九三二三八〇〇）までお問い合わせを。

事務局からのお知らせ

会費の納入を
お願いします

本年度の総会で皆さんからご承認をいただき、年会費制が正式に導入されることとなりました。

これを受けて、本年九月に、総会結果と併せて本年度分の年会費二千円の払込取扱票を郵送し、払込期限を十月末に設定させていただいたところです。

本会報の発行時点において会費が未納と思われる方につきましては、会報と同封にて払込取扱票を再送付させていただきましたので、納付につきましてご協力くださるようお願いいたします。

なお、既に会費を納付いただいた方につきましては、順次、鴨川ふるさと大使として委嘱させていただき、鴨川市から専用の名刺を配布する予定としておりますのでご了承ください。

役員の公募

本会の役員につきましては、会則第五条第二項に基づいて二年毎に改選を行っているため、過日実施した理事会におきまして、平成二十四年度の改選に向けた取り組みの方針を決定しました。

具体的には、前回の平成二十二年度と同様、全会員を対象として次期役員の公募を行うこととし、この会報に公募申込書を同封させていただきました。

会費制も導入され、設立三年目にして新たなスタートを切ったふるさと会の運営の中核にご協力いただける方を広く募集しておりますので、皆様からのご応募をお待ちしております。

ふるさと産品

ふるさと会では、みんなみの里の協力を得て、会員の皆様向けに郷土の特産物の販売を斡旋しています。

長狭米や日本酒はもちろん

のこと、野菜・花・海産物・菓子類など、幅広く商品を取り揃えておりますので、ご自宅用・贈りもの用など、是非ご利用ください。

詳しくは、本会報に同封のパンフレットをご覧ください。

ふるさと納税

ふるさと会では、鴨川市が受け入れを行うふるさと納税に積極的に協力していくことを勧奨していますが、平成二十三年度におけるこれまでの実績は次のとおりとなっております。皆様からいただいたご厚意に感謝申し上げます。

年度区分	総数 [円 (件)]	うち会員 [円 (件)]
平成23年度 (10.31時点)	2,630,000 (36)	440,000 (19)
制度開始時(H20) からの累計	9,751,000 (239)	2,330,000 (59)

ふるさと納税とは

平成二十年度の税制改正により設けられた制度で、自分のふるさとや縁のある土地の自治体に寄附を行うと、その自治体が発行する受領証明書を添付して確定申告することで、自分が居住している自治体に払うはずだった住民税の一部が控除される制度。名称は、寄附と税金の控除を組み合わせたにより、「ふるさとへの納税」と同様の効果を実現するものであることから名づけられた。

東日本大震災後においては、被災地への寄附方法としてもこの制度が広く活用されている。

掲載記事の募集

事務局では、会員の皆様からの広告や記事掲載のご依頼をお待ちしております。

ご自身が経営される店のPRから最近参加したボランティア活動などの報告まで、幅広く受け付けておりますので、気軽に相談ください。

